

様式第13号（第18条関係）

事業活動完了報告書

(1)団体名 <small>だんたいめい</small>	一丸柔術
(2)代表者氏名 <small>だいひょうしゃしめい</small>	山端祐樹
(3)事業名	ブラジリアン柔術で充実したスポーツライフ 健康増進と共生社会の構築
(4)事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い層の市民に健康づくりを実施する場と機会の提供のため ・小中高生に「一流」と未知のスポーツに触れる機会を作ることで、視野を広げて可能性を見出すため ・共生社会に向け、あらゆる人がともに住み、ともに生活できるような社会を築くためのきっかけづくり
(5)活動の状況	<p>R6. 9/3～10/12（週3回火木土12回）ブラジリアン柔術教室 見学会&体験会 参加者3名</p> <p>R6. 10/13 ブラジリアン柔術セミナー&練習会 参加者50名</p> <p>（補助金対象外期間活動）</p> <p>R6. 出張ブラジリアン柔術教室&練習会 1/6 上北柔道協会 参加者30名 2/20・6/29 青森山田高校 同 中学高 参加者50名</p>
(6)事業の周知PRの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞折り込みチラシ ・市内公共施設にチラシを配布 ・SNSを活用した情報提供
(7)事業の検証	<p>（良かった点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内外の小学生から大人までの参加者があり、幅広い交流と繋がりができた ・学生の参加者から新しい気づきがあったと好評だった <p>（反省すべき点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者にセミナーのアンケートを実施すべきだった <p>（改善すべき点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チラシの構成 もっと公共的な募集の仕方 ・セミナーのアンケートを実施する
(8)今後の展開	<p>セミナーは参加者も多く、概ね好評だった、次回の開催を希望する参加者も多くいたので、計画を推進していく</p>

R6.10/13 ブラジリアン柔術教室&練習会

セミナー全体写真 米軍三沢基地 軍人、県内 小中高生、
七戸柔道少年団、上北柔道クラブ、青森県、岩手県、秋田県から
その他一般 見学者を含め約50名が参加

講師の紹介後 準備体操を行い、各団体・個人から事前に受け付けていた質問事項に沿って実演・講習を行った。



申し込みのあった見学者と学生の保護者の方々からは、ダイエットには効果があるのか？護身術としてブラジリアン柔術が有効であるか？等の質問があった。講師の中井氏からは『ダイエット効果や健康増進の為にも、格闘技の中でも比較的安全なブラジリアン柔術は効果が高く、有酸素運動と無酸素運動が繰り返されるスポーツは他にないので？幅広い市民の健康づくりの機会としては非常に理にかなったものだと思いますよ』と教えていただきました。また、ブラジリアン柔術は護身術の手段として『非常に有用性が高いと感じますが、私ならまずはそのような状況に陥らない環境づくりと、もしもの事態になった時には、大きな声を出して、走って逃げる、または、抵抗せず命を最優先する、かな？・・・』と周囲の笑いを誘っていた。



また、柔道をしている小中高生からは柔道に応用できる技の質問が多く寄せられていた。実際に柔道にも使える技が教示されると、参加した小中学生はもとより柔道の指導者からも『感動した』『こんなやり方があったのか』『試合に使ってみたい』『また参

加したい』『頑張ってる』『覚えない』等の声が寄せられ、大きな刺激を受けていた。パリオリンピックで金メダルを受賞した角田夏実選手をはじめ、多くの柔道選手がブラジリアン柔術を取り入れていることで県内の柔道少年団からの問い合わせが多かった。



そして、参加した米軍三沢基地のブラジリアン柔術チームの方々とは言葉の壁を越えてコミュニケーションを図っていた様子が見えた。小中高生は学校で学んだ英語を使い、一般の参加者は片言の英語とボディーランゲージで技のかけ方や、様々な動きを説明していた。逆に米軍人の方からは、体の部位を日本語なんて言うのか、子供たちには、英語での挨拶の仕方を教わったり、年齢を聞かれるなど、異なる文化や言語に触れていた。



今回の事業を通じて、参加した中高生は新しいスポーツに触れ、トップ選手との交流をすることで大きな刺激を受けたと感じた。彼らの視野が広がり、新たな目標とやる気を持つきっかけとなることを期待したい。この事業を通じ、ブラジリアン柔術を経験した子供たちの中から将来のオリンピックが生まれることを願っている。また、参加者の中には、このセミナーをきっかけにブラジリアン柔術に興味を持ち、普段の練習会にも参加してくれるようになった方々もあり、健康づくりの機会を提供できたと思う。そし

て、米軍三沢基地の外国人との交流で、異なる文化や言語をもつ多様性の体感をし、相互理解のきっかけを作れたのではないかと思う。ブラジリアン柔術は安全で多世代が参加でき、健康改善を目指すことが出来るスポーツであると再認識した。当日は障がいがありながら参加した方や、年齢や国籍に関係なく参加していただき、新たな活躍の場を提供できたと感じた。

今後の課題としては、個別に細かいセッションができるように定員50名にしたことでお断りした団体もあったので、セミナー回数を増やしたり、講師補助の増員などを検討したい。また、事前のプレゼンテーションでもっと公共性を持ったものにしていく必要があると指導して頂いたものについては、もっと工夫すべき点であり、次回はブラジリアン柔術の周知仕方や、セミナー時の見学者をフォローする人員の確保、普段の活動のなかで、ブラジリアン柔術の格闘技スキル以外に健康増進やコミュニケーションの場である事をアピールすることで改善したい。